

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2990300085		
法人名	ウェルコンサル株式会社		
事業所名	フレンド倶楽部郡山(グループホーム)		
所在地	奈良県大和郡山市外川町72-1		
自己評価作成日	平成25年9月15日	評価結果市町村受理日	

基本情報リンク先

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 Nネット		
所在地	奈良県奈良市登大路町36番地 大和ビル3階		
訪問調査日	平成25年9月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

スーパーや医療モールが徒歩で行ける位置にあり、日常生活の継続が行いやすく、安心が持てる環境です。住宅地からは、少し離れた所にある為、月1回以上の外出を企画し、地域交流を行っています。家庭菜園にも力を入れており、四季折々の採れたての野菜を使った料理を食卓に並べています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設3年目に入る新しいホームである。ホームはより良いサービスを利用者に提供する為、ひたすら走り続けてきた。自治会とも少しずつ連携も取れてきつつあるし、今年はホーム念願の家族会を設立。家族からのアンケート等を通じて、イベントを企画し開催につなげた。また地域との交流も増え、ホームの夏祭りへの参加を地域の方にお誘いしたり、また地域のイベントに利用者と一緒に参加したりと、地域と共に親密な関係づくりが進展している。また法人が医療介護事業を展開している強みを活かし、利用者の種々の条件に合ったサービスが提供できるよう努めている。「利用者が住み心地の良いホーム」を目指し、管理者と職員が一丸となって取り組んでいる。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念は以下の通りで玄関にも掲示しています。 自分らしい安心した生活をお手伝いします。 入居者様の尊厳を守ります。 地域との連携を努めます。	昨年の課題であった法人の理念の他に事業所独自の理念を作成した。更に、毎月と年間目標を掲げている。月1回のケア会議で話し合い(不参加の者には個別に対応)し、共有し実践に繋げている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	6月18日・19日・20日片桐中学校校体験学習受け入れ 7月3日 郡山西幼稚園との交流会	昨年の課題であった自治会とも接点を持ち交流を深めている。自治会へ加入を申請している。また今年はアニマルセラピーや化粧療法等のボランティアに来て頂き、地域との交流を図っている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩時の挨拶は欠かさず行っている。第6回フレンド学会を開催し「地域で支える認知症」をテーマに外部に向けて行った。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催し、スライドショーを用いて近況報告や事故報告等を行い、一層のサービス改善につなげる話し合い・連携を深めている。	昨年の課題であった民生委員や自治会の会議へ参加の呼びかけであるが、参加の要請をしてはいるが現在のところ実現していない。市担当職員又は地域包括支援センター職員、及び利用者とその家族が参加し2ヶ月毎に開催している。	地域との連携を深めるためにも、運営推進会議へ民生委員や自治会代表者の参加要請を継続していくことが望まれる。また運営推進会議の場で外部評価結果等を課題に話し合い、また利用者や家族からの要望や意見を汲み上げサービスの質の向上につなげる取組みを期待する。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターや市役所へは、制度の情報や助言を求め、サービスの質の向上の為に連携している。	地域の人達や家族の悩みを聴く機会が多く、地域へ出かけたり、またホーム内で認知症の講演会など、市と協働で開催している。今迄にも、事業所内で起きた困難な事例を市の担当者の協力を得て解決した例もあり、常に信頼感を持ち相談している。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	新人研修の段階から、本社会議内での研修や月に1回行うユニットでのケア会議においても、マニュアルや日常のケアの場面を想定して学習をしている。	玄関は夜間のみ施錠している。事業所が幹線道路と接している為、利用者の事故には常に気を付けている。また法人と事業所で身体拘束について研修をし、身体不拘束意識を徹底している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内では、虐待行為は全くない。職員には、虐待についての正しい理解をさせ、教育を徹底している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は元より、職員においても、その内容を内部・外部の研修に参加し学んでいる。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、重要事項説明書・利用契約書等を文書で示し、理解していただいているか疑問点の有無の確認をしながら説明している。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	自分の意志の表現が困難な入居者様に関しても感情が汲み取れるまでの関わりを心掛けており、また主にその代弁者である、ご家族様には日頃からご入居様の細かな変化も連絡させて頂き、ご要望をお聞きしている。またケア会議で議題にし、絶えず話し合う機会を設けている。	事業所の課題であった「家族会の設立」を今年に果すことができた。家族会を通じて家族との交流を図っている。夏祭りの内容やお花見の場所等を、利用者や家族にアンケートをとり、その意見を反映させた取組みが行われている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常の些細な事であっても、報告・連絡・相談を行っており、職員の性格や考え方を管理者が把握する事で、的確なタイミングで的確なアドバイスをしている。	管理者は職員の意見を月1回のケア会議、個別面談、メールや休憩時の雑談等で聴いている。管理者に直接言いにくい要件は、主任が間に入って聴いている。「インターネットの環境が整っていない」との職員の意見を反映し、環境改善に取り組んだ事例がある。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は、月1回の幹部従業員との会議に参加しており、現況を細かく報告・連絡・相談出来る。また、常時介護部統括とのホットラインがあるので、不具合の発生時には、早急な対応が図れる。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修・中段階研修・サブリーダー研修・リーダー研修を順次行っている。また認知症介護実践者研修・管理者研修・リーダー研修等を計画的に受けさせている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大和郡山市グループホーム交流会を立ち上げ、8月9日に音楽療法の先生を招いて、ミニコンサートを開催した。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の困っている内容について、本人のペースで語って頂き、不安の内容をよく理解するよう努めている。利用者勧誘を前面に押し動めないようにしている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人の代弁者としてのお話、ご家族としての想い、ご要望を傾聴し総合的に理解するよう努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その方が、グループホーム利用が適切かどうかを冷静に判断出来るような立場にたって相談者の話を傾聴している。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々のADLを正確に把握し、その方の生活歴も踏まえて、IADLの支援を行う。ご入居様が介護されるだけの側の方ではない意識を全職員が自覚している。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、健康状態・生活の様子を写真を添えて「一言通信」という形で送付している。また関連の他ユニット(グループホーム)の様子も比較出来る様に、「笑顔だより」も送付している。これ以外にも来所時の談話や、遠方の方等には、細めな電話連絡をしている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	買い物や外食、眼科・整形外科への通院の支援の他、ご家族と外出される前には、お化粧をしたり、楽しく社会生活が出来る様努めている。	馴染みの美容院に今でも通っている利用者もあり、友人達がよく訪ねてきてくれる。利用者の方が以前によく花見に行ったことがある郡山城址等に利用者全員で行き、思い出話に花を咲かせ、馴染みの場所で一日を楽しく過ごせる支援をしている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや食事の時など、気の合う同士の座席配置や外出のペアリング等を配慮したり、生活の場面で入居者間でも、相互に助け合える機会を提供している。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居し他施設に移られた方への面会や、お亡くなりになられた方には、墓参りや、ご家族様にお手紙や電話でご様子を尋ねたりしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その方の生活歴や習慣・好きな事などの情報を得る様にしている。入居後は、特にご本人様の行動や会話などから、思いや意向を把握をする。	開設3年目の事業所でもあり、比較的元気な利用者が多い。利用者の居室で話をじっくりと聴き、「全部話してスッキリした!」という言葉が聞くまでじっと聴くようにしている。本人が言えそうにない場合や家族と意見が相違した場合には利用者本位になるよう勘案している。	前回提案した、本人のやりたい事、趣味等が書きとめられるアセスメントシート様式に改善し、医療面だけでなく、生き甲斐、やり甲斐等を把握し、利用者本人の思いや意向にそった生活支援ができる取組を期待する。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人・ご家族からの断片的な、お話しも聞き逃さず、可能な限り詳しいアセスメントの作成の材料と捉える意識を持ち、実行している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その方の心身の状態を常に職員が把握し適切なケアの提供に実践を行うように努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランに沿った支援の評価を行い、その方の状態に適切なケアへの検討をご本人・ご家族の思いを聞いたうえで、職員の全体会議で話し合っ改善している。	介護計画は、利用開始1ヶ月後に、3ヶ月目に再評価して、6ヶ月で更新している。思いが伝えられない方は、表情からくみ取るようにしたり、家族と相談している。利用者には体を動かすことを楽しむ人が多いので、本人の思いを活かすようにしている。	利用者と常に接している介護職員が利用者の思いや意向をくみ取りやすい立場にあり、よりよいサービスの質の向上に繋げるためにも、介護職員の意見等を介護計画作成や評価に反映させてゆく取組が望まれる。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	実施期間を名示し期間終了時の見直しを行っている。常に新鮮な情報の共有を行っている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人の関係クリニックから訪問看護を受けられるように支援している。系列の施設等と合同の催しを企画し参加して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者の必要性を考慮し、協力の依頼をしている。 (音楽療法・化粧療法・アニマルセラピー等)		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	整形外科・眼科・心療内科等の受診が必要な場合は家族に連絡をし、希望があれば受診を行っている。 歯科受診は訪問も手配できる。	内科は利用者全員協力医療機関のかかりつけ医であるが、それ以外の受診科は各個人のかかりつけ医で対応している。内科は月2回、歯科医は診察が必要な利用者へのみの対応だが週1回の往診がある。隣接する民間医療モールに通う利用者も多い。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週火曜日の定期的な訪問により、介護者・看護者の連携から双方の気づきを確認し、ケアに反映している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	往診医とご家族を交えて入院先の担当医への現況や予後話し合い、早期の退院に向けて支援している。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化対応指針を策定している。ターミナル状態に近づかれた場合は、関係者のカンファレンスを行い、書類を作成し取り組んでいる。往診医は24時間体制での対応してくれる。	研修や対応準備はしているが、利用者の多くが比較的元気な方が多いので、事例等はない。法人の他事業所で病院とホームの中間的な役割を果たす「有床診療所」という施設があり、現在はそこで対応している。将来利用者の重度化に備えてきちんと体制化しようと考えている。	開設3年目で軽介護度の利用者が多いとはいえ、近い将来の重度化に備え医療機関の協力や職員の体制を確立するとともに、家族との話し合い等対応の明文化は必須である。早急にこれらの取組みを期待する。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	新人研修の内容等にも含めている。対応マニュアルの所在を定位置とし、平素から熟読・定期的にシミュレーションをしている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	事務所の壁に災害対策の対応手順を掲示すると共に年2回の避難訓練を行っている。スプリンクラー設置及び消防署直通の電話を設置している。非常時の備蓄もしている。	年2回、うち1回は夜間を想定した避難訓練を実施している。地域の協力参加は、まだ得られていないが、近隣にある同法人の各事業所間では、お互いの協力体制は出来ている。消防署の指導もあり、車椅子の利用者は、1階の居室で生活している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、個人の個性に合わせ共感した対応をしている。その人のペースに合わせて声掛けしている。	風呂場やトイレの入り口に「のれん」を掛けて、不意にドアが開いても内部が見えない様にしている。利用者の個々に合わせた対応している、例えば名前を愛称で呼んで欲しいと言われる方には愛称で呼び、英語が得意な方には、英語での声掛けもしている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	起床時の洋服の選択・食事の献立の希望・アクティビティの選択等、自己決定出来るような声掛けの仕方に注意している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合や共同生活での制限を感じられる事の無い様、その人らしさを考えた生活の支援を行っている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人の希望を基本にし、アドバイスや支援を行っている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員が冷蔵庫の中を見て、献立を考えたり、調理を行い、盛り付け・配膳・下膳・食器洗い等、食事に関連する工程全てを楽しみながら、食生活の支援をしている。	お昼はお魚、夜はお肉をメインに献立、食事作りをしている。利用者も比較的元気な方が多いので食材を切ったり、盛りつけたりと職員と一緒に楽しんでいる。敷地内で栽培し、収穫した野菜も食材に入る。ホーム全体で回転ずし等への外食を楽しむこともある。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重管理等の身体状態を把握し、提供する食品や調理に反映させている。水分摂取は時間を決めずに細めに行っている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ADLに応じた、声掛け・支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、失禁を減らすように誘導等の支援を行っている。	一人一人の排泄パターンの把握はしているが、尿意があまりない利用者に関しては、トイレに行きやすいタイミングで声かけして誘導している。そのパターンを繰り返す事によって、習慣化し、排泄自立に向けての支援に繋がればと期待している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝10時おやつにヨーグルトを召し上げて頂いている。体操や散歩等で、運動量を増やし、腸の活動を促進出来る様に努めている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望の入浴時間や回数に添えるように準備している。安全に楽しんで入浴できるように同性介助・脱衣所や浴室の戸を閉めプライバシーの保護に配慮している。	入浴は基本は週3回以上、夕食前に入ることになっている。利用者の中には毎日入ってる方や朝風呂の方もいる。利用者と一緒に入浴剤を選んだり、季節に応じてゆず湯等を楽しんでいる。ホームは夕食後から寝る前の時間帯で入浴できないかと検討している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の生活活動を促し、適度な運動量を確保して、スムーズな入眠と安眠を支援する。高齢者であるという意識の元に、自由に休息もとれるように、随時声掛けや誘導も行う。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	既往歴や現病を把握した上での薬の内容の勉強をしている。医師の指示通りに服薬して頂けるようにし、症状の変化等は、その都度連絡している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人との会話や生活歴・思いを汲み取り、裁縫や調理・カラオケ・家庭菜園等、個々にアクティビティを選択している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩は、車椅子使用の方も同様に、外気に触れて頂く機会と捉えている。ADLに応じて買い物等楽しめる方には、ホームの買い物に同行して頂き、職員と共に。季節によってはピクニック・屋外での食事会、家族との外出がある。	職員から利用者に「どこへ行きたいか」と外出先を聞き、リクエストに対応し外出先を決め、花見や、ピクニックを楽しんでいる。毎日散歩に出かける方や、事業所内の畑の野菜や花を育てている方もいる。職員はカラオケボックスや映画館等にも行けないかと検討中である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額のお金を所持している方は、ご自分で管理し、支払い時のみ、職員がお手伝いする事もある。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご自分でダイヤル出来る方には、受話器を手渡し、可能でない方には、呼び出しをして受話器を手渡して会話して頂けるように、お手伝いしている。手紙は便箋や切手を準備し投函のお手伝いしている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベランダや家庭菜園に出て、季節を感じたり、季節の花や緑が見えるように、環境を整えている。ユニット内はバリアフリーで家具の配置で自立支援・自由な移動を支援する工夫をしている。	近くに幹線道路が通っているとは思われない程静かな環境で、利用者はゆったりと其々の時間を過ごしておられる。居間の壁には、ホームで外出した際に撮った写真や、利用者が参加して作った手芸作品も飾られており、居心地の良い穏やかな空間づくりが出来ている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お気に入りの座席や場所、気の合う方同士の座席の配慮を意識している。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには、ソファやテーブルを置き、利用者には、思い思いの場所で居心地よく過ごして頂いている。居室内は、その人らしさと安全性を考えた家具の配置をし、生活を実感して頂けるように、馴染みの物をご家族様が持って来られている。	ベッドも備えつけてあるが、使い易い自分のものを利用する方もいる。仏壇や桐のタンスなど、馴染みものを持ち込んでいる利用者や、自分の書道作品や記念写真など壁に飾っている方もいて、利用者其々が心地よい空間で過ごしている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや個々の居室の表札の掲示をしている。手すりや家具で自立した歩行を支援している。トイレ内にも張り紙等での支援をしている。		